

授業科目名	歌曲実習Ⅱ	担当形態	演習		
		開講学期	秋学期		
担当教員	はつかの たけし 初鹿野 剛	単位	1	年次	3

＝授業のテーマ及び到達目標＝

ドイツロマン派後期までの歌曲作品の演奏を通じて、作曲家固有の作風、語法に触れる。

詩の内容や言葉の意味が、楽譜上でどのように表現されているかを認識し、それを踏まえた演奏が出来るようにする。

＝履修の条件と学習の方法＝

- 「歌曲基礎演習」を履修していることが望ましい。
- ドイツ語の授業を併修するのが望ましい。
- 体調管理に十分留意し、健康な状態で授業に参加すること。
- 欠席する場合は、ガイダンス時に告知するアドレス宛、必ず一報を入れること。また、出席が3分の2に満たない場合は、単位を認定しない。
- 飲食の禁止(止むを得ない水分補給は除く)、携帯電話・パット等の端末の使用禁止(授業の様子の録音・録画を目的とする場合はその限りではない)。
- 毎授業で取り上げた楽曲を教員のアドバイスを踏まえ歌えるようにする等、復習を行うこと。また、毎授業最後に、次回授業で取り上げる教材の配布や簡単な説明を行うので、音取り、意味調べ(対訳の書き込みだけでなく、それぞれの単語の意味を辞書で調べる)等の予習も行うこと。
- ピアニストを同伴できる者は同伴すること。

＝授業の概要＝

- 履修者に実際に課題となる曲の詩を朗読、また歌ってもらい、担当教員が適宜アドバイスをしていく「実習」形態の授業。
- 最終回の授業時には授業のまとめとして、授業で取り上げた曲を皆の前で成果発表する。

＝授業計画＝

- 第01回 ガイダンス(シラバスの確認他)
- 第02回 ブラームスの歌曲について ①概説、歌詞の朗読
- 第03回 ブラームスの歌曲について ②対訳の作成を通じて内容をより深く理解する。
- 第04回 ブラームスの歌曲について ③演奏
- 第05回 リヒャルト・シュトラウスの歌曲について ①概説、歌詞の朗読
- 第06回 リヒャルト・シュトラウスの歌曲について ②演奏
- 第07回 リヒャルト・シュトラウスの歌曲について ③演奏
- 第08回 フーガー・ヴォルフの歌曲について ①概説、歌詞の朗読
- 第09回 フーガー・ヴォルフの歌曲について ②演奏
- 第10回 フーガー・ヴォルフの歌曲について ③演奏
- 第11回 2～10回以外の楽曲の演奏
- 第12回 2～10回以外の楽曲の演奏
- 第13回 試演会のプログラムを作成する(プログラムノート、対訳等)
- 第14回 試演会のリハーサル
- 第15回 試演会(授業内でやった曲を暗譜で発表する)

※履修生の学習進度や能力に応じて、取り扱う楽曲や授業内容の変更もあり得る。

＝テキスト(必携)＝

- 楽譜は都度教員より指示。

=参考書・参考資料=

- 歌うドイツ語ハンドブック 歌唱ドイツ語の発音と名曲選（三ヶ尻正、ショパン社）
- 独和辞典（発音記号の記載のあるもの、必携）

=成績評価の方法と評価の基準=

- 「まとめ」における歌唱（授業内で教員がアドバイスした内容を踏まえ、暗譜で、正確な発音で、声樂的にかつ音樂的に歌えているかを評価 …40%）
- 平素の出席状況（30%）
- 授業に取り組む態度 等（30%）

=その他=

- 不明な点がある場合は随時教員に問い合わせること（担当：初鹿野、hatsukano.meion@gmail.com）。